

1. 2024年度 学校評価結果



2. 学校自己評価－4段階評価－

分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
学校運営 ★★★★★ 3.5 生徒 3.5 保護者 3.5 教職員 3.4 昨年度 3.5	学校運営方針の重点目標を実践する。 成果を点検し、問題点の改善・改革に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 『学校運営方針』に示す「基本方針」を理解し、教職員間の学校の特色の共有は深まりつつあるが、それ以上に、生徒・保護者が学校の特色を意識し、理解していることが分かった。 東海大学の付属校であることのメリットを、生徒・保護者・教職員で実感することができた。 学校の施設・設備に関する満足度は、教職員よりも生徒・保護者の方から高い評価を得た。 一方で、学校への愛着や誇りをもつ度合いに関しては、登校日数の少ない通信制教育の中で、いかに育むべきかという課題がある。 	東海大学との一貫教育を学習指導や進路指導の柱とし、通信制・単位制の教育の中で、人間性を高める活動を行っていく。また、これまで以上に、個々の生徒に応じた教育支援を充実させ、教育の質の改革・向上を目指す。そして、生徒・保護者が学校への愛着と誇りを実感できるよう、学習指導・生活指導・進路指導、及び課外活動の充実を図っていく。
学習指導 ★★★★☆ 3.2 生徒 3.3 保護者 3.2 教職員 3.5 昨年度 3.3	基礎学力の定着および向上をはかる。 通信制教育の基本である「自学自習・自考」を促す支援、指導を積極的に行う。	<ul style="list-style-type: none"> 教職員からは、学習指導（通信教育講座・レポート指導・スクーリング）に対する高い意識と意欲、また、生徒の主体的・能動的な学習活動（自学自習）を導き出すための工夫を行う姿勢が見て取れた。 生徒・保護者も、教職員が展開する指導の意図をよく理解し、教職員の工夫について高く評価している。 一方、単位修得率は全体的に高いものの、学習の継続に苦労している生徒もいる。通信制課程であっても全日制と同等の教育の質を求めていく中で、通信制において、どのような工夫ができるか、今後の研究課題である。 	基礎学力の定着や単位習得率の向上は言うまでもない。東海大学との一貫教育を充実させ、基本的な知識・技能の修得を土台として、生徒の主体的・能動的な学習活動（自学自習）を導き出すための工夫、生徒の興味・関心を高めるための努力を重ねていく。また、通信制教育の中で、「対話的で深い学び」の可能性を探り、スクーリング等の場面で実行していく。

分野/評価	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
年次・クラス指導  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3.5</div> 生徒 3.5 保護者 3.4 教職員 3.4 昨年度 3.4	教員と生徒・保護者 および生徒間の良 好な信頼関係を育 む。	<ul style="list-style-type: none"> ・前述「学校運営」欄で、生徒の学校への愛着や誇りに関して伸び悩みを指摘したが、年次・クラスへの帰属意識は高い評価を得た。教職員や他生徒とのコミュニケーションのあり様も良好であり、登校日の過ごし方も充実しているとの回答を得た。この傾向は、保護者においても同様であった。 ・教職員においても、生徒対応の面で意欲的な取り組みが見られた。 ・一方、「学校の一員としての自覚をもたせる指導をしているか」との質問に対する教職員の評価が低い。生徒対応やクラス運営の次のステージとして、学校への帰属意識の醸成に取り組みたい。 	個に応じた学習指導や進路指導を通じて様々な活動を行い、緩やかな集団の一員としての自覚を育む。また生徒や保護者の悩みや問題に早期に気づき、面談や保護者会等を実施して、相談や助言を行うよう、教職員全体で対応する。さらに、その次のステージとして、生徒・保護者の学校への帰属意識を高める方策を検討し、実行していく。
生活指導  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3.5</div> 生徒 3.7 保護者 3.3 教職員 3.3 昨年度 3.5	基本的な生活習慣 を確立する。 人としてのモラル・ マナーの向上に努 める。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒からは、どの項目についても高い評価を得られた。特に、学校の施設・設備の使用に関する質問や、挨拶等の集団生活時のマナーに関する質問からは、本校生徒の充実した学校生活の様子が見て取れた。 ・教職員からも、礼儀や挨拶、モラルや思いやりを大切にする指導姿勢を見て取ることができた。 ・一方、保護者・教職員の両者からは、生徒の服装(みだしなみ)に関する疑問が寄せられている。生徒の感覚と大人世代の感覚とのすり合わせが必要であろう。 	多くの生徒たちは礼儀や挨拶を大切にし、服装や頭髪等についても高校生としての規範意識をもっている。今後も生徒への声かけを教職員全体で行い、意識の向上をはかっていく。登校時に生徒が自立して過ごせる場を作り、その場から基本的な生活習慣を育んでいく。
進路指導  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3.4</div> 生徒 3.4 保護者 3.3 教職員 3.3 昨年度 3.4	進路指導の充実を はかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の進路に対する意識は高い。調査からは、自己の学習状況や進路志望に沿った科目選択を心掛けている様子が見受けられた。また、本校の進路指導に対する満足度も比較的高い。 ・保護者の評価も良好ではあるが、生徒の受け止め方と比べると、評価はやや下がっている。 ・教職員への調査が明らかになっているように、課題としては、進路に関する情報提供の機会をさらに設けること、また、他大学進学希望者への支援を厚くしていくことなどが挙げられる。 	キャリア教育をベースとした進路指導を充実化していく。また、東海大学との一貫教育をさらに推進するとともに、他大学の総合型選抜入試等に対応するため、知識・技能の習得に留まらない、総合的な学力を高めるための進路指導プログラムを構築する。
特別指導  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">3.2</div> 生徒 3.3 保護者 3.1 教職員 3.3 昨年度 3.2	校外活動・生徒会活 動・部活動に関わ ることで人間性を育 む。	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の特別活動への取り組みには、評価に値するものがあつた。特に、生徒の主体性を育み、生徒との対話を通じて実施する学校行事・HR活動・部活動では、積極的な取り組みが見られた。 ・生徒や保護者も、HR活動や通常のスクーリング時での活動については、高く評価した。 ・一方、校外での行事や委員会活動、また、建学祭(文化祭)等における特別活動においては、生徒間の温度差があつた。この温度差は保護者にも見受けられ、評価としてはやや見劣りがする結果となつた。 	人間性を育む校外学習活動や行事の充実を図る。また、生徒・保護者への効果的な周知方法も検討する。学園のスケールメリットを生かした学園オリンピック・ヨーロッパ研修等への参加も促していく。学校への帰属意識を高め、生徒が意欲的に活動できる場面を設定していく。

3. 教育活動自己評価－4段階評価

教科	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
国語 3.2 昨年度 3.1	日本語の的確な理解力、思考力、表現力を育成しつつ、文化の担い手としての言語感覚を磨く。背景にある文化や歴史への理解を深めるとともに、異なるものに対する想像力を高め、主体的かつ客観的な思考力を涵養する。	基礎的な文章の読解力・表現力が身についた。一つの作品を通して、興味関心の幅を広げ、広く社会や自己を見つめ直すきっかけとなった。学んだことを家庭で共有し思索を深める生徒もおり、家庭での対話も視野に入れた学習を展開していきたい。	レポートの提出で終了しがちな学習を、身近な他者との対話に持ち込めるよう、日常に落とし込む仕掛けを考えたい。
地理歴史 3.1 昨年度 3.1	広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を、小・中学校社会科ではその基礎をそれぞれ育成する	身近な問題や世界で起こっている問題について自ら調べるようになった。物事を詳しく調べ内容理解を深めるということが以前よりもできるようになったが、生徒同士の意見交換等、主体的・対話的で深い学びの時間を確保することが難しかった。	主体的・対話的で深い学びを可能な限りできるように、ロイロノート等 ICT 機器の適切な活用を目指す。
公民 3.1 昨年度 3.0	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。	なぜその法律ができたのか、など物事を深く考える力、社会的事象や現代社会用語などの単語の意味を理解し考察する力が身についた。また、ロイロノートなどの使用で生徒同士の意見交換等、主体的・対話的で深い学びを体感できるような活動もできた。さらに、身につけたことを生徒それぞれの生活に結び付けていけるように展開していきたい。	引き続き、社会の基本的な現象や用語などの理解を深められるよう丁寧な授業展開を目指す。その上で、社会や人生の課題について自分事として捉え考えられるような学習展開を目指す。
数学 2.9 昨年度 3.0	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的な活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。	数学的な見方・考え方を生かしながら、知識・技能を習得し、習得したものを活用することができた。また、事象を数量や図形の関係に着目して、論理的に考えることができた。	より広い領域や複雑な事象の問題を解決するための思考力、判断力、表現力の育成し、反復練習を促し、家庭学習の定着を目指す。
理科 3.1 昨年度 3.1	科学的な事物・現象に関わり、科学の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察・実験を行うことなどを通し、さまざまな科学的な現象を研究するために必要な概念や原理・法則の理解を深め、資質・能力・技能・力・態度を育成することを目指す。	「科学」への興味をもつ生徒が多く、しっかりと自学自習がなされていることがうかがえた。また、興味をもつ生徒はきっかけがつかめると、自分自身で興味を持って探究する姿勢が身についていく。生徒の探究心をさらに向上させるような努力をしていきたい。	通信制の学習システムの中で、限られた時間と空間で「物理」「化学」「生物」「科学と人間生活」の実験をどのように展開していくかをさらに検討し、実施していきたい。また、生徒自らが、家庭でできるような実験を紹介していきたい。
保健体育 3.1 昨年度 2.9	【体育】心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成することを目指す。 【保健】個人及び社会生活における健康・安全に関する理解を通して健康についての総合的な認識を深め、保健の見方・考え方を働かせ、生涯を通じて自他や社会の健康に関する課題を解決していくための資質や能力の育成を図ることを目指す。	【体育】運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上の必要性を理解し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度がみられた。課題として、新しい活動に自らアンテナを張り、能動的に運動する意識を持たせることである。 【保健】生活における健康・安全に関する内容を理解させることができた。知識は、保健の見方・考え方、生涯を通じて社会の健康に関する課題を解決していくための力を養わせることができなかった。	【体育】能動的な活動を促すためには、楽しさや心地よさを体感することも必要。短期目標を定め、それを意識した身体活動をする事により、達成感ややりがいを得られる授業展開事を目指す。 【保健】スクーリングの中でグループワークなどを通して、対話的で主体的な学びを実践することが求められる。難易度はかなり高いが、知識の伝達だけになるような授業展開を改善していきたい。

教科	重点目標	成果と課題	改善点とこれから目指すこと
芸術 3.3 昨年度 3.3	<p>【音楽】世界各国の音楽に触れ、国による音楽の違いを知る。作曲家の生涯に触れ理解を深める。音楽史を学び音楽の変遷を学ぶ。これらにより音楽知識の幅を広げる。</p> <p>【美術】美術に関する専門的で幅広く多様な内容について理解を深めるとともに、独創的・創造的に表すことができるようにする。美術に関する専門的な知識や技能を総合的に働かせ、創造的な思考力、判断力、表現力等を育成する。</p> <p>【書道】書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを旨とする。中国や日本の古典に触れ、書道を愛好する心情を育成し、表現能力の習熟や鑑賞力を伸ばす。</p>	<p>【音楽】楽譜を追うこと、五線上の音の高さ、音符の長さ、拍子などの音楽要素を養うことができた。</p> <p>【美術】デッサン、アクションペインティング、木版画を通して自分のイメージを抽象表現することができた。</p> <p>【書道】初唐の三大家のひとりと言われる欧陽詢の厳正な楷書の美しさを学び、点・角のはっきりした縦に長い(背勢)、丸みのある穏やかな線(向勢)について養えた。</p>	<p>【音楽】スクーリング時に楽器等を使用して、グループセッションを取り入れる。</p> <p>【美術】ロイロノートを利用してデジタルの作品の提出も進める。</p> <p>【書道】スクーリング時に添削レポートでは伝わりにくい筆づかいや姿勢などに重点を置いて指導する。</p>
外国語 3.1 昨年度 3.1	<p>英語の4技能である「聞く・話す・読む・書く」について、バランスよく力がつくように指導する。具体的には、基本的な語彙や文法事項について、講座やスクーリングでの教員からのインプットだけでなく、生徒が自らアウトプットできるようにすることを旨とする。</p>	<p>生徒からの反応においては、知識が身についたことや英語への興味が高まったこと、英語の学習を楽しんでいると感じられたことが数多く挙げられた。このことから、生徒たちはアウトプットに向けて、概ね前向きな姿勢で取り組んだと言える。</p>	<p>先の通り前向きではあるものの、「聞く・話す・読む・書く」や語彙や文法事項について、どの科目でも特定のどれかが顕著に伸びたということはあまり見受けられない。顕著な伸びが成果として出てくるよう、今後の指導を一層検討・工夫する必要がある。</p>
家庭 3.0 昨年度 3.1	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成することを旨とする。</p>	<p>食生活、衣生活、経済生活などの生活のマネジメント力を養えた。青年期の課題と自立について考察し、家庭や地域の生活を創造する資質・能力を養えた。</p>	<p>学習を通じて身につけた知識と養った力が、生徒一人ひとりの実生活につながり、活用することのできる生活者を育成することを旨とする。</p>
情報 2.9 昨年度 3.0	<p>情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。</p>	<p>Google Blocklyによる機器制御のプログラミングを行い、コンピュータの仕組みについての知識を養い、Excelを使用してコンピュータによるデータ処理手法を学ぶことで、効率的で正確なデータ処理能力の基礎を身につけた。</p>	<p>情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる力や情報モラル等、情報活用能力を含む学習を一層充実させる。また、生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育む。</p>

4. 2024年度 学校基本データ

【学校名】東海大学附属望星高等学校（通信制）

【所在地】東京都渋谷区富ヶ谷2-10-7（〒151-0063）

TEL 03-3467-8111

FAX 03-3467-8114

【創設】1959年4月開設（東海大学附属高等学校通信部として）

1963年4月設立（東海大学附属望星高等学校として）

【理事長】松前 義昭（マツマエ ヨシアキ）

【校長】吾妻 俊治（アヅマ トシハル）

【課程】通信制・普通科

【全生徒数・クラス数】 合計1955名

年次	AW		C		技能教育7施設	
	生徒数	クラス	生徒数	クラス	生徒数	クラス
1年次	96名	4組	0名	0組	571名	21組
2年次	129名	4組	19名	2組	502名	22組
3年次以上	158名	6組	16名	2組	464名	22組
計	383名	14組	35名	4組	1537名	65組

2024. 5. 1現在

※その他科目履修生等クラス設定有

【教職員数】

校長 1

教頭・事務長 1

教頭 1

専任教員 20

養護教諭 1

特任教員 1

講師 16（東京地区技能教育3施設含む、※技能教育7施設は75）

事務職員 5（特任1名含）

【卒業者数】 卒業生数 本校119人、（協力・提携校8人、技能連携442人）

（2024年度末累積 35, 743人）

【進路状況】〈本校〉

東海大学22人、他大学28人、短大2人、専門学校8人、就職1人

2025年3月31日現在

5. 2024年度学校運営方針

創立者松前重義博士は、教育の機会均等を目指して、FM放送を利用した通信制高等学校を多くの困難を乗り越えて1959年本校を開校した。1963年4月付属高等学校通信教育部から付属望星高等学校となり、その後、衛星放送、インターネット放送と時代の流れやメディアの進化とともに配信のスタイルも変化してきた。この半世紀、存続にかかわるような多くの困難に直面しながらも、これまでの多くの教職員・在校生の教育・学習への熱意により「建学の精神」に基づく教育理念のもと、東海大学の付属高等学校として、また唯一の通信制高等学校として、大学等進学に対応した難度の高い教育指導から、基礎学力を養成する教育指導まで、生徒の幅広いニーズに応じた教育環境を提供してきた。

少子化の影響により全日制高校の在籍生徒が減少する中、通信制高校の生徒数は26万人を超え、高校生の12人に1人が通信制高校生の時代となった。このような時代の変化の中で、全日制高校の通信制課程の新設や、全日制・定時制高校が遠隔授業や通信教育を活用した柔軟で質の高い学びの提供を積極的に行うなど、通信制高校のみならず高校教育全般における変革期が訪れている。本校はこれまでと同様、全日制での通学が困難な生徒へのセーフティネットとしての役割を担う一方、通信制高校教育にあっても、全日制と同等の、より質の高い教育が求められている。生徒・保護者一人ひとりの希望や夢に柔軟に応え、将来への夢を描ける高校を目指し、より効果的な教育システムを構築し、通信制高校の「先駆け」としての役割を果たしていかなければならない。

私たちはこれまで、様々な目的や事情を抱えながらも、本校に学びの場を求める人々に広く門戸を開き、「教育の指針四か条」、校旗の意味する「愛」と「正義」の精神、これら「建学の精神」のもと、日常の教育活動に取り組んできた。今後も学園創設の原点と、本校の存在意義を決して見失うことなく、教育に邁進していかなければならない。生徒自らが「生きる力」を身につけ、自己の夢や希望を抱くことのできる教育を展開すべく、「2024年度学校運営方針」を提示する。

1. 基本方針

(1) 「高校現代文明論」を中心とした教育の推進と定着

東海大学がめざす教育の基本理念は「人と社会と自然が共生する新しい文明社会の構築」である。「高校現代文明論」は、文系・理系の領域を融合した幅広い知識と国際性豊かな視野を育成し、教養ある現代市民として調和のとれた文明社会の建設に大きな役割を果たせる人材育成の基盤となる教育課程の核となる科目である。広域通信制・単位制の特色を活かし、「高校現代文明論」を中心に据え、学習指導・生活指導・進路指導、課外活動、道徳教育などを通して「自ら考え、自ら学ぶ」態度の育成を図るために、個々の生徒の人格形成や将来の夢の実現につながる教育を全教員で積極的に推進する。

(2) 高校通信教育講座を柱とする指導内容の更なる改善

①高校通信教育講座、レポート添削、スクーリングの質的向上をはかる。

②上級学校への進学により対応できる講座・サポート学習の拡充・精査を図る。基礎力不足の生徒への対応など、通信制高校における「個別最適な学び」の実践をすすめる。

③技能教育施設との協力関係をより深め、学習指導の充実化を推進する。

(3) 高等学校学習指導要領の改訂に伴う教育改善の実行と検証を行う。

①「教師が何を教えたか」の教育から、「生徒が何を学んだか」への転換

②ICT教育環境等を積極的に活用し、「主体的な学び」「深い学び」「対話的な学び」の実現に向け、研究・実践を推進する。

③生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養う。各教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の実現状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、生徒の学習状況を分析的に捉える、観点別学習評価を行う。

(4) 通信教育実施計画の公表など、HP等を活用して公開性・透明性のさらなる進展を目指す。

①通信教育実施計画を中心に、教育方針や教育内容等が広く理解を得られる様に公開性を高める。

②日常の教育活動等について、生徒・保護者・地域との信頼関係の構築をさらに進められる様な、情報発信等を、HPやロイノート等を用いて進展をはかる。

③各技能教育施設における教育活動においても、公開性の進展を目指す。

(5) 学園における唯一の通信制高等学校として、本校ができる学園全体への貢献を行う。

①通信制課程としての貢献

②通信制のシステムを活用した貢献